

採用年度	平成 28 年度
お名前	及川 真実
派遣期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	農学／動物生命科学／統合動物科学
派遣国	英国
受入機関名	University of Cambridge
受入機関部局名	Wellcome Trust/Cancer Research UK Gurdon Institute
研究概要	私たちのからだは、父親の精子と母親の卵子から伝わったゲノムの情報をもとにして形作られていきます。しかし最近、ゲノムの情報だけでなく、精子と卵子に存在する「エピゲノム」とよばれる情報も受精後の胚に伝わり、個体の正常な発生に重要な役割を持つと考えられています。私の研究では、精子の核に存在するエピゲノム情報が、本当に受精後の胚に伝わるのか？伝わるならば、それはどのようなメカニズムなのか？を明らかにすることを目指しています。
派遣前の準備についてのアドバイス	イギリスのビザの制度は頻繁に変更されるので、申請前に何度も最新のルールを確認した方が良いでしょう。海外特別研究員の場合は Tier5 で申請される方が多いと思いますが、Tier2 の場合には英語の能力証明も必要です。留学を意識したときから定期的に英語の試験を受けておくと、渡英決定後焦らずに済みます。受入については、申請の時点でポスドクとして雇われていたことと、研究機関の担当者が日本人や海外特別研究員の受入経験があったことから、スムーズに手続きを進められました。また学生時代に研究室を訪問した際に、ケンブリッジの日本人研究者を紹介していただいたことも良かったです。研究だけでなく、生活についても心配なことを事前にメールでご相談できたので、安心して渡英することができました。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	研究でも生活でも、自分がどうしたいのかをはっきりと主張することが大切です。英会話も含め、主張は日本人が感じる壁のひとつだと思いますが、これができるようになると事態が好転することが増えます。日常生活で大変なことは家探しです。イギリスには一人暮らし用の安いアパートはほぼないので、何人かで一軒家をシェアしている人が多いです。重要な点は、人との相性、水回りや暖房環境の確認だと思います。渡英直後に引っ越したお家はシャワーのお水がなかなかお湯に切り替わらず、年末に風邪をひきました。環境に慣れるためと我慢しすぎず、気になることはイギリス人や滞在歴の長い日本人に相談した方が良いでしょう。またイギリスは歯の治療代がとても高いので、渡英前には検診を受け、滞在中は一層歯の健康に気をつけた方が良いでしょう。
派遣先での生活の様子	ケンブリッジは比較的治安の良い町です。シティセンターにはスーパーや銀行があり、日曜日でも短縮営業ですが開いているお店が多く便利です。一方、ケム川近くの公園には可愛い牛や羊たちが放牧されるなど、のんびりとしたところもあります。仕事は 9-17 時で、土日はオタマジャクシの水換えなど必要があれば行くスタイルです。勤務後はスポーツなどの趣味に励む人や、家族との時間を大切にしている人が多く、仕事と私生活のバランスの取り方の勉強にもなっています。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	大好きな研究を続け、研究室のメンバーともっと長く一緒に研究できるようになり、本当に良かったです。フェローシップの獲得により研究室への負担が減ったこと、以前より自分の研究に対し自信を持てるようになったことも大変良かったです。恵まれた環境で、貴重な研究経験・人生経験を積ませていただき、ご支援に心から感謝しております。